

方針と重点	市の基本施策	学校の教育目標	資質・能力	育てたいとの関わり	基本施策	本年度新たな学校の重点		具体的な実践内容または観点 (手立てとしてどうか、または達成度はどうか)	評価 A S D	分析と改善点
方針・重点・郷土高山に根ざし、未来を切り拓くための資質・能力を育む	①深い学び ②一領域の学びたい自分へ向かう授業への挑戦 ③地域生活の協働・地域社会への発信 ④生き生きと働ける学校づくりの発信 一人ひとりの子に居場所をつくる	一人で判断して行動できる・人と関わり共に生きる	自立・共生	力をつける学び	①	自分から粘り強く学び、仲間と学び合うことを充実させる授業		「自立タイム」・「共生タイム」を位置づけ、自分の力で取り組む、仲間と学び合うの評価を90%以上にする	A	・「自立タイム」と「共生タイム」(生徒評価100%)、「レビュータイム」(生徒評価100%)を意識的に取り組ませ、学校全体で確実に取り組んだ成果である。 ・教師のOODAループの手立てを明らかにしながら、できた、できるから楽しいにつなげる深い学習を目指す。 ・伝え合うのではなく、学び合うための「共生タイム」とレビューが次時につなげる振り返りの充実を図る。
					②	教科を学ぶ楽しさを実感し、生徒自身が高まりを実感する授業		終末の学びの振り返りの場「レビュータイム」を位置づけ、教科が楽しいと実感するの評価を80%以上にする	A	
					①	少数であることを生かすとともに、生徒主体の深い学びを実感できる魅力あふれる授業		生徒の状況に合わせて最適な学習の場を設定できるように仕組み、教科の本質やOODAループを意識した生徒の思考の動きを創り出す	B	
					②	「なりたい自分」への地道な取組と個の見届け		自己肯定感・存在感・有用感を高めるために、教員が率先して「なりたい自分」に対しての小さな変化であっても見出し、個の伸びを認め、適切な声をかける	B	
					②	ワクワクする活動の工夫と、無理なく動ける活動の深化		生徒の意識に即した活動を設定し、全校学習や地域への働きかけを充実させ、少数であっても充実できる本質を捉えたスリムな活動を目指す	A	
					②	心の回復力(レジリエンス)を高める指導		自他のがんばりや成長などの多様性を認め、周りの人と協力関係を築けるように学級経営・生徒会活動を行う	A	
				地域と協働・貢献	③	小学校との具体的な連携		義務教育学校設立に向けて3つの柱(学習道徳・生活特活・教相特支)を踏まえて、小中間で具体的な連携を進める	B	・9年間の系統性を意識しながら、学習の積み上げや特活の方向性を小中で確認して着実に進める。 ・生徒の活動を披露したり、生徒の思いを地域に伝えたりする場面は設定したが、地域の方の参加が少なかった。行政や学校運営協議会の協力を仰ぎ、地域の方の参観を増やし、開かれた学校を目指す。
					④	保護者・地域との積極的な連携		開かれた学校を踏まえて、保護者や地域(学校運営協議会等)に、生徒の活動を披露したり、生徒と交流する場面をつくらせたりして連携を深める	A	
					③	9年間を系統立てた郷土教育の充実		系統性を踏まえ、地域の方から郷土の自然、文化、産業、歴史等を学び、郷土のよさや課題について考える指導を行う	A	
								郷土について学び考えることを通して、生徒が将来郷土に関わりたいと思える指導を行う	A	

学校運営協議会における主な評価内容

- ・少人数の良さが学校経営に活かされている。少なさを強みとする運営を期待する。
- ・学校評価は概ね良い結果である。たくましさ身に付けさせるために手をかけすぎない支援をお願いしたい。
- ・地域を離れたときに委縮しないように、自分の思いを人に伝えていく活動を大切にしたい。
- ・先が見えない困難な世の中だからこそ、自分で考え正しい判断をして行動する生徒を育てていく。